

MESSAGE

岐阜大学学長メッセージ

岐阜大学は、地域活性化の中核拠点としての役割を担い、自治体や産業界との連携により、地域社会及び人類が直面する課題解決に貢献するイノベーションの創出をミッションとしています。

脱炭素社会の実現に向けて、東海国立大学機構では、「カーボンニュートラル推進室」のもと、社会と連携してカーボンニュートラル達成に向けた取組を進めています。大学キャンパスにおいても「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」のスローガンのもとに、省エネ・節電行動を推進しています。

岐阜大学では、2009年に「環境ユニバーシティ」を宣言し、全学で環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得しています。その運用に不可欠となる内部環境監査は、教職員だけでなく、学生の参画による協働で行われており、岐阜大学全体の環境意識が醸成されていることを自負しています。

2024年には、「環境社会共生体研究センター」を開設し、カーボンニュートラル社会の実現や気候変動への適応、生態系サービスの持続可能な利用、生物多様性の保全といったグローバルな環境課題と、地域の活性化や産業構造の転換といった社会課題に幅広く対応していきます。また、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）や国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の支援を受けて、脱炭素燃料アンモニアのスマートエネルギーシステ



ムやプラズマを利用したカーボンリサイクルシステムの開発を企業と連携し推進しています。特にアンモニア利用ゼロカーボン発電システムは、山形県遊佐町に2028年社会実装を目指し、学内で実証試験を開始しました。

今こそ、みなさん一人ひとりが地球に目を向けて、カーボンニュートラル、環境問題について一緒になって考えてほしいと思います。岐阜大学は環境に関する教育・研究のさらなる充実を図り環境課題の解決に貢献していきます。

岐阜大学 学長

吉田 和弘

名古屋大学総長メッセージ

名古屋大学学術憲章では、名古屋大学の使命を「人々の幸福に貢献すること」とし、人間性と科学の調和的発展を目指すための高度な研究と教育を実践する、と定めています。人々が幸福になるためには、現代社会の抱える諸課題を解決していかなければなりません。現代社会における喫緊の課題の一つは環境問題です。とりわけ地球温暖化という環境変化が最も深刻な問題であることは衆目の認めるところです。もはや異常気象は異常ではなくなり、その結果である米不足も大きな話題となっています。急激な環境変化は、地球に住む全ての生命にとってとてつもない脅威となっています。その脅威と戦うために、人類はその叡智を結集しなければなりません。

名古屋大学は全国に先んじて環境学研究科を2001年に設置しました。そこでは文理融合によって「持続性学」「安全・安心学」を柱に教育と研究を進めています。また近年では、カーボンニュートラル達成と脱炭素社会構築のため、未来社会創造機構のもと「脱炭素社会創造センター」を2022年に設置いたしました。ここでは、「地球の危機」に対して名古屋大学の「知」を総動員し、最先端研究や文理融合・超学際による課題解決に取り組み、次世代の新たな価値と未来社会の創造を目指しています。また、2件採択されているCOI-NEXT（共創の場形成支援プログラム）のうち、変環共創拠点では、「消費から変環へ」と題し、二酸化炭素の回収などを柱に、官民を巻き込んで環境に優しい持続可能な社会の構築を目指します。



しかし、何より大事なものは身近なところから構成員の皆が環境問題、地球温暖化問題に取り組んでいく姿勢だと考えます。そこで、キャンパスのカーボンニュートラル化に向けた取組、「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」を進めています。そこでは、総長が先頭に立って目標値を定め、毎年地道な取組により省エネ活動を継続しています。

名古屋大学はこれからも、東海国立大学機構の一員として岐阜大学とのシナジーを最大化しながら、社会の課題解決に向けて邁進してまいります。

名古屋大学 総長

杉山 直